



【本号のトピックス】

新理事長挨拶／第96回IADR報告／本学会理事がIADRにて受賞！／
厚生省老健事業に本会事業が本年度も採択される／研究倫理の啓発③／
委員会だより／専門医活動レポート・認定者の声／支部だより／学会だより

日本老年歯科医学会の魅力のさらなる向上へ

一般社団法人日本老年歯科医学会理事長
佐藤裕二

6月より新しい執行部が発足し、身が引き締まる思いです。素晴らしい役員はじめ、皆様の力を結集すれば、画期的な成果が出ると信じています。

高齢者はますます増えてきているなか、櫻井前理事長のご尽力もあり、口腔機能低下症が保険導入され、本学会に求められる役割は増加の一途です。会員数も毎年300名程度増加し、日本歯科医学会専門分科会23学会で最も勢いのある学会といえます。ただ、この流れに安易に身を任せているだけでは面白くありません。やるべきことはたくさんあります。

口腔機能低下症の診断と管理を多くの会員ができるようにするため、支部組織での講演、学会ホームページでの広報、会員向けパンフレット作成などを行います。また口腔機能低下症の管理指針の確立も急務です。

さらに市民の啓発も重要です。口腔機能低下症を知ってもらい、本学会の存在を社会に認知してもらうために積極的に活動します。本学会の専門医を取得することの意義を高めることにもつながります。

市民向けには「口腔機能年齢」という考え方を導入したいと思っています。単に一定の基準で口腔機能を評価したのでは、中年層では該当せず、超高齢者ではほぼ全員が該当し、目標設定が困難です。

年齢に応じた口腔機能、たとえば、「10歳老けている」

などといった指標を導入すれば、それぞれの年代における目標が明確になります。会員の力を結集して、このような指標をつくります。

本学会は、多職種、多くの他学会会員、大学所属以外の方が多くのも特徴です。多職種・他学会・他団体との連携をさらに深めたいと考えています。

会員であることに誇りがもてる、市民にとって頼りになる、他団体からみて信頼できる、そんな魅力のある学会にしましょう。目を輝かせて生き生きとした会員が集い、熱く語り合い、ワクワクと活動する、そんな学会にしましょう！！



第29回学術大会 新理事長講演にて

第96回 International Association for Dental Research (IADR)が ロンドンで開催！ 多くの会員が発表！！

総務担当理事 上田貴之

第96回IADRは、2018年7月25～28日にイギリス・ロンドンで開催されました。IADRには、32のscientific groups/networkがありますが、その一つに Geriatric Oral Research Group (GORG)があります。GORGは、IADRのなかでも特に活発な活動が行われているグループの一つです。これまで、本会の会員も多数 GORGの会長を務められました。

今回のIADRでは、Geriatric Oral Researchのカテゴリ

ーで、6つのシンポジウムが開催されました。そのうち、5つで本会の会員がパネリストとして講演を行いました。また、口頭発表やポスター発表でも多くの本会会員が発表されました。

多数の本会会員がIADRに参加され、会場のあちこちで活発な議論を行う姿が見受けられました。世界のGeriatric Oral Research分野における本会の存在感を示した4日間でした。

【本学会員が講演を行った主なシンポジウム】

・ Mastication and Deglutition of Geriatric Patients: Mechanisms and Practice

井上 誠 (新潟大学) : The Latest Research on the Association between Deglutition and Aging

・ Influence of Mastication on Memory/Cognition During Development and Aging

池邊 一典 (大阪大学) : Masticatory Function and Quality of Life during Aging

・ Oro-facial Impairment in Stroke Patients

小野 高裕 (新潟大学) : Rehabilitation of Stroke Patients with Oral Appliances

上田 貴之 (東京歯科大学) : Functional Rehabilitation of Stroke Patients

・ Moving Ahead with Causal Inference-Exploring Application in Dental Research

相田 潤 (東北大学) : Distinguishing Causal Effects and Mechanisms from Complex Data: Evidence from the Japan Gerontological Evaluation Study (JAGS)

・ Translating Research Evidence into Policy for Better Oral Health

山本 龍生 (神奈川歯科大学) : How Can Research on Vulnerable Older Adults Influence Oral Health Policy?



IADR GORG Symposium with the European College of Gerodontology (ECG) and the Japanese Society of Gerodontology (JSG)

国際渉外委員会委員長 小野高裕

本シンポジウムは、IADR の前日 (7 月 24 日)、ロンドンの British Dental Association において開催され、会場が事前に満席となるほど大盛況でした。本学会からは、櫻井前理事長と小野国際渉外委員長が座長を務めた招待講演 (藤田医科大・松尾先生、東京医科歯科大・金澤先生、大阪大・高阪先生)、ならびにポスター発表 6 題を行い、大いに存在感をアピールしました。今後の学会間国際交流がさらに加速するものと期待されます。



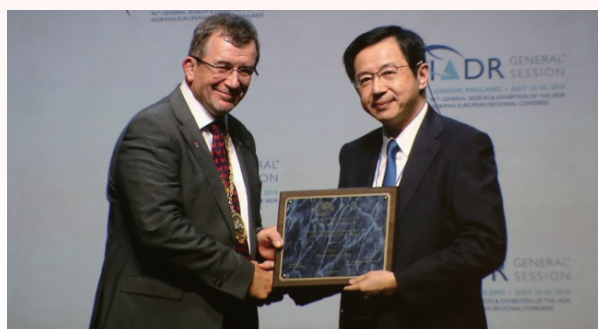
笑顔で記念撮影

小野高裕先生が IADR Distinguished Scientist Award (Geriatric Oral Research) を受賞！

渉外担当理事 櫻井 薫

ロンドンで開催された第 96 回 IADR の開会式および授賞式で、新潟大学の小野高裕先生が、栄えある IADR Distinguished Scientist Award (Geriatric Oral Research) を受賞されました。本学会としてもたいへん喜ばしいことです。咀嚼・嚥下障害の客観的検査法と口腔内装置によるリハビリテーション技術の開発、さらには高齢者の口腔の健康と全身の健康との関わりに関する研究業績が評価されての受賞となりました。同賞は、基礎から臨床までの 17 の研究分野において、IADR 会員のなかから毎年 1 名の受賞者が選ばれますが、この分野での受賞は、池邊一典先生 (大阪大)、宮崎秀夫先生 (新潟大) に次いで日本人で 3 人目であり、我が国の老年歯科医学研究の水準の高さが評価されたものと思われます。写真

は、授賞式における IADR 会長の Angus Walls 先生と小野先生です。



授賞式の様子

平成 30 年度老人保健健康増進等事業(老人保健事業推進費等補助金)の紹介

H30 老健事業特任委員会委員長 吉田光由

本学会から平成 30 年度老人保健健康増進等事業(老人保健事業推進費等補助金)に応募した結果、本年度も無事採択されましたので、その概要をご報告いたします。

○事業名

介護保険施設等における口腔の健康管理に関する実施状況の把握及び協力歯科医療機関等の役割に関する調査研究事業

○特任委員会構成

櫻井 薫(研究代表者)、吉田光由(委員長)、秋野憲一、足立 融、石黒幸枝、伊藤加代子、糸田昌隆、井上 誠、猪原 健、岩佐康行、梅本丈二、太田博見、大野友久、小原由紀、鴨田勇司、貴島真佐子、小玉 剛、阪口英夫、坂本まゆみ、佐々木力丸、梶安秀樹、恒石美登里、戸原 雄、中島純子、西 恭宏、花形哲夫、平野浩彦、古屋純一、山崎 裕、吉岡裕雄、渡邊 裕、渡部芳彦

○事業内容

平成 30 年度介護報酬改定において、口腔衛生管理体制加算の対象サービスの拡大や口腔衛生管理加算の実施回数等の見直しが行われました。そこで本事業は、改定による効果を検証するために、新たに口腔衛生管理体制加算の対象となった居住系サービスにおける対象サービスの浸透度の調査、介護保険施設等(介護保険施設、特

定施設、グループホーム)における口腔の健康管理に関するサービスの実施状況等の把握と分析を行い、入所者の口腔の健康維持を図るための指針を作成することとしました。

○会員の皆様へのご協力をお願い

本事業の事業金額は 1,900 万円であり、可能なかぎり多くの施設で調査が実施できればと考えています。会員の皆様でご協力いただける場合は学会事務局までご連絡ください。なにとぞよろしくお願いいたします。



白熱する会議の様子

研究倫理の啓発③ ～人を対象とする医学系研究について～

倫理委員会副委員長 大野友久、委員長 竹島 浩

研究を実施する場合、学会員のほとんどの方が人を対象とした研究になると思います。研究対象が人である以上、対象者の尊厳や人権を守ることが第一であり、右に掲げた事項を基本方針として遵守したうえで研究を実施することが求められています。また、倫理審査を受審する場合は、人を対象とする医学系研究に関する研修を受講する必要があります。本学会には e-ラーニング(CITI Japan)で受講できるシステムがありますので、研究の実施を検討されている学会員の方は日本老年歯科医学会ホームページの「倫理研修 受講受付」(下記 QR コードからもアクセスいただけます)をぜひ一度ご確認ください。

※「人を対象とする医学系研究」を論文投稿や学術大会発表する会員は、所属機関等の倫理委員会(倫理審査委員会)の承認が求められます。学会ホームページで「倫理審査が必要な研究とは」を掲載しています。



- ①社会的及び学術的な意義を有する研究の実施
 - ②研究分野の特性に応じた科学的合理性の確保
 - ③研究対象者への負担並びに予測されるリスク及び利益の総合的評価
 - ④独立かつ公正な立場に立った倫理審査委員会による審査
 - ⑤事前の十分な説明及び研究対象者の自由意思による同意
 - ⑥社会的に弱い立場にある者への特別な配慮
 - ⑦個人情報等の保護
 - ⑧研究の質及び透明性の確保
- (厚生労働省：人を対象とする医学系研究に関する倫理指針ガイダンス(H29.5.29)より)

委員会だより

編集委員会

委員長 松尾浩一郎

本学会の学術研究誌「老年歯科医学」は 1987 年 7 月に刊行が始まり、2018 年には 33 巻が刊行されています。年 4 号発行されている本誌は老年歯科領域における科学と技術に関する知識の啓蒙および研究活動の推進を目的とし、本会会員からの原著、臨床報告、調査報告、活動報告、

トピックスなどの投稿論文を掲載しています。また、最近では学術大会での講演、シンポジウムの講師の先生方に依頼して、発表内容を総説として寄稿していただいています。

本委員会では、会員の皆様から多くの論文を投稿していただき、雑誌の質をさらに高めていくための取り組みを

行っていこうと考えています。編集委員会では、投稿された論文が、学術的に、また倫理的にも問題がないか確認し、査読者からの意見をまとめて、投稿者へ戻し、論文の質を高めて、掲載できるような手続きを行っています。今後は、投稿論文の増加や総説などの企画原稿の増加など、雑誌のさらなる充実を目標にしております。そのための査読シ

ステムの見直し、査読期間の短縮などを検討していく予定です。また、学術大会等で発表された質の高い研究には、投稿を依頼し、本誌から情報発信するよう努めております。本会会員をはじめとする老年歯科医学に関わる研究者・臨床家の皆様にとって魅力ある学術誌になるよう、今後も努めてまいります。

専門医活動レポート

老年歯科専門医レポート

陵北病院 阪口英夫

現在私は東京都八王子市にある陵北病院に勤務しています。陵北病院では入院患者さんの口腔衛生管理や歯科治療を中心に、経口摂取が困難になった患者さんへの診察・検査や摂食嚥下リハビリテーションを行う際のアドバイスなどを行っています。また介護病棟では経口摂取を維持するためのミールラウンドなどを主な業務としています。陵北病院では、医師・歯科医師が同じ医局に所属し、1人の患者さんをチームで診察する体制が取られています。食事形態を決めることも、医師と歯科医師が相談しており、全身状態だけでなく口腔の状態や栄養状態を加味して決められるようになっていきます。

これからの老年歯科専門医には全身状態の把握や口腔機能・摂食嚥下機能をしっかり診察できるスキルや能力が必要だと感じます。歯科医師だけでは全身状態の把握は困難であり、医師をはじめとする医科関係者とのチームアプローチが重要になると思います。陵北病院では、その実践ができるように体制づくりを行っています。このような環境で研修に励みたい歯科医師を募集していますので、興味のある方はぜひご連絡ください。



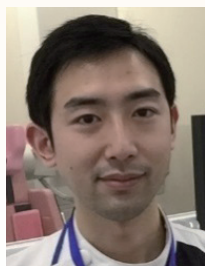
患者さんの食事観察を行う田中病院長（左）と筆者（右）

新規 専門医認定者の声

飯田貴俊先生

（神奈川歯科大学大学院全身管理高齢者歯科学分野）

高齢者歯科医療への取り組みとしては、主に訪問診療での摂食嚥下リハビリテーションを行っています。専門医の症例報告書では多職種協働・栄養管理を中心としつつ、終末期在宅医療や外来搬送による全身管理下での一般歯科治療等も含めた高齢者歯科の新しい標準的な診療を目指した内容としました。筆記試験は補綴・全身管理・口腔内科・訪問診療・社会歯科・摂食嚥下リハと多岐にわたり、一般/臨床問題が多肢選択形式で出題され、難易度はまちまちでした。今後は老年歯科専門医として得意分野を磨きつつ、その他の部分も充実させ高齢者歯科診療に日々精進していきたいと思っています。

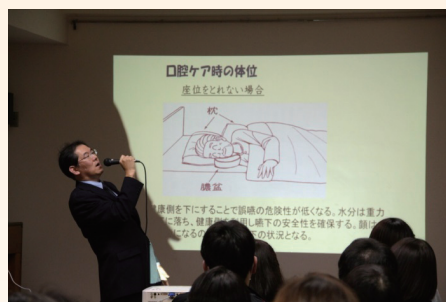


老年歯科専門医の役目とは

高木歯科医院 清水 潤

私がこの学会に入会した頃の学会誌は薄く小さいものでしたが、現在では号数手ごたえのある重量感で、社会の求めにこたえる学会の躍動を感じます。私は大学卒業後、口腔外科を勉強しようと医学部付属病院で研修しましたが、そこで名波智章先生と出会い総義歯の奥義を伝授していただきました。全身管理と義歯補綴学を携え、勇んで老年歯科の世界に進みましたが、自分のスキル不足を感じていました。「地域医療を実践する」、それを教えてくださったのが、佐々木勝忠先生でした。口腔ケア・嚥下リハ、多職種連携、NSTへの参画など、それまでの歯科が苦手であった分野を開拓する突破力をじかに見せていただきました。

さて、私が思う老年歯科専門医とは、有病高齢者に対する高度な診療技術をもつスペシャリストではなく、高齢者全般に対する総合的な診療能力をもった歯科医師であり、多職種間をつなぐマネジャーであるべきと考えます。医科や介護の職種だけではなく歯科医師、歯科衛生士に対しても、高齢社会の求めに歯科がどうこたえるのが先導する役目があると思います。幸い私は師匠に恵まれましたが、これからも若い世代のお手本になれるよう汗をかいていく所存です。

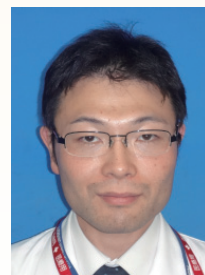


講演中の筆者

金森大輔先生

（藤田医科大学医学部七栗記念病院歯科）

私は2004年に愛知学院大学歯学部を卒業後、研修歯科医として藤田保健衛生大学病院で働き始めました。当時から病院では高齢者が多く、初めて担当した口腔がんの入院患者は80歳を超えていたのを記憶しています。そのような病院でしたので、症例報告では高齢患者の治療に加え、患者のQOL向上を考慮したケースレポートを作成しました。試験は多肢選択形式で社会制度や基礎的な知識を問う問題、臨床を含めた写真問題が出題されていました。今回、老年歯科専門医資格を取る過程でさまざまな知識を整理することができ、専門医資格を取ることは研鑽を積むうえで重要であると感じました。今後は、高齢患者の診療により力を入れていきたいです。



支 部 だ よ り

平成 30 年度東京支部研修会
「『口腔機能低下症』について
理解を深めよう」開催報告

東京支部 水口俊介
平成30年度東京支部研修会「『口腔機能低下症』について理解を深めよう」が、2018年7月16日(海の日)に東京医科歯科大学歯学部特別講堂にて開催されました。「口腔機能低下症」が保険収載されましたので、その啓発のためと正しく算定していただきたいということで開催いたしました。口腔機能低下症だけでなく、「歯援診」の申請が可能のように、認知症や歯科治療時における緊急時の対応についても内容に含めました。東京医科歯科大学歯科同窓会の後援を受けプロパガンダに協力していただきました。当日は約90名の参加があり、非会員の方も多くいらっしゃいました。今後も口腔機能低下症の啓発に努めてまいります。



講師の先生方（左から上田貴之先生、筆者、
古屋純一先生、久保田一政先生）

愛知支部共催セミナー
「東海オーラルマネジメント研究会」
開催報告

愛知支部 大野友久
2018年7月22日(日)に第5回東海オーラルマネジメント研究会が開催されました(参加者236名)。「認知症の人へのオーラルマネジメント」をテーマとし、国立精神・神経医療研究センターの山本敏之先生、ナースホーム気の里の田中靖代先生、高知学園短期大学の坂本まゆみ先生にご講演いただきました。現場の関心が強いテーマということもあり盛会となり、豊富な臨床経験を基にされたご講演内容は参加者から非常に好評でした。



ウインクあいちにて行われた講演の様子

鹿児島支部共催セミナー「第2回九州
老年歯科フォーラム in 鹿児島」報告

鹿児島支部 西 恭宏
鹿児島支部は、2018年7月29日(日)に鹿児島県歯科医師会、全国在宅療養支援歯科診療所連絡会との共催で「第2回九州老年歯科フォーラムin鹿児島」を鹿児島県歯科医師会館にて開催しました(参加者132名)。川越正平先生(あおぞら診療所)から基調講演「地域包括ケア時代におけるかかりつけ歯科医師への期待」、原 龍馬先生(原歯科医院)から教育講演「かかりつけ歯科医と訪問診療」、4名の各職種によるシンポジウム「多職種で行う食支援と口腔管理」があり、訪問歯科診療と医科との連携の重要性が再認識されました。第3回は来年、長崎で行われます。



鹿児島県歯科医師会館での講演の様子

京都支部主催公開研修セミナー
「健康長寿に貢献する歯科の目指すもの」
開催報告

京都支部 林 甫
西日本豪雨のため、開催直前に延期が決定となり、約2ヵ月後の2018年9月1日に京都学会会の共催、京都府歯科医師会の後援にて130名の参加を得て開催されました。櫻井 薫先生からは、「口腔機能低下症への対応」として、形態的回復が中心であった歯科治療のあり方を問われ、機能の管理(維持・回復)が重要であることの詳しいお話があり、杵安秀樹先生からは「ライフステージを考慮し、チームで支える」の演題で、地域包括ケアでの歯科診療所の立ち位置、多職種連携、人生ステージでのアプローチなど、今後は人の尊厳を最期まで大切にしたいという内容で、生活・命を支えるための医療・ケアを念頭に置いた在宅医療体制を進めていかなければならないというお話がありました。お2人の熱意のこもったお話をいただきました。



多職種の方々に聴講いただきました

学 会 だ よ り

2018 年度 臨時社員総会報告

下記のとおり、本年度追加事業が臨時社員総会で承認されました。

追加事業の詳細は、次号ニュースレターで報告いたします。

開催日：2018年9月21日（金）18:00～

会場：日本歯科大学 生命歯学部 第1会議室

議案：2018年度事業計画 追加事業に関する件

〔定款第38条（3）〕

追加事業：厚生労働省 委託契約事業

「検査方法等の実証に係る研究等一式（口腔内の虚弱等の状態を評価する客観的スクリーニング方法等の開発・検証）」

第30回学術大会のご案内

今回の学術大会は、第31回日本老年学会（総会）との共催で仙台にて開催されます。皆様、ふるってご参加ください。

テーマ：「食べる力を支える老年歯科医学」

演題登録期間：

2018年11月15日（木）～2019年1月7日（月）正午

！例年より締切が早まります！

★詳細は、大会ホームページ（下記 QR コードからもアクセスいただけます）をご確認ください。



第5回高齢者医療 臨床研修会を開催します！

「認知症患者の口腔機能管理と栄養管理」

日時：2018年12月16日（日）13:00～17:30

場所：ペルサル神保町アネックス

★詳細は、学会ホームページ（下記 QR コードからもアクセスいただけます）をご参照ください。



支部セミナーのご案内

★詳細は、学会ホームページでご確認ください。

・岡山支部共催セミナー「第9回 口腔栄養関連サービスの推進事業公開セミナー」

日時：2018年10月28日（日）9:30～15:30

会場：岡山大学歯学部棟

主催：岡山県、岡山大学病院

・岡山支部共催セミナー「第10回 口腔栄養関連サービスの推進事業公開セミナー」

日時：2018年12月16日（日）9:30～15:30

会場：岡山県立大学学部共通棟

主催：岡山県、岡山大学病院

老年歯科医学研究助成

2019 年度 募集要項（2018 年申請）

日本老年歯科医学会では、老年歯科医学における基礎、臨床、疫学研究において、新知見の得られる可能性をもつ革新的な研究プロジェクトの発展・促進を図ることを目的として研究を募集し、採択研究を助成いたします。ふるってご応募をお待ちしております。

応募締切：2019年2月28日

★詳細は、学会誌33巻2号の会告および学会ホームページでご確認ください。

「会員向けメールマガジン」の配信が始まります

学術大会や学会主催研修会および本会の活動報告について、これまで以上に up-to-date な学会情報をご提供いたします。

本ニュースレターと併せて、会員に親しまれる内容を目指してまいります。



編集後記

佐藤裕二理事長の新体制となり、広報委員会も河相安彦委員長、糸田昌隆副委員長、織田展輔委員、小原由紀委員、貴島真佐子委員と飯田の6名にて委員会活動がスタートしました。各自がこれまでに培った知識、経験を基に、このニュースレター以外にもさまざまな広報活動を展開していく予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

（飯田 崇）



発行人 佐藤裕二

編集 （一社）日本老年歯科医学会広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

駒込TSビル （一財）口腔保健協会内

電話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341

E-mail gakkai30@kokuhoken.or.jp